



現場実習を終え、自分を見つめ直して

後期現場実習を終え、一人一人が実習の成果と課題について振り返り、新たな目標に向けて学習に励んでいます。実習を経験することで、就労に必要なとされる作業能力はもちろんのことだけでなく、周囲の人と適切に関わることができるか、体調を管理して休まず通勤する体力が身に付いているかなど、働く基盤となる大切なことを確認できたことでしょうか。自分を見つめ直し、日々の生活の中で課題解決に向けた努力を積み重ねてほしいと思います。

また、保護者の皆様には、実習期間中、実習日誌や保護者見学を通しての実習先との関係づくり、励ましの声掛け等御協力をいただきまして誠にありがとうございました。御家庭の支えがあつての実習です。心より感謝申し上げます。



進路決定に向けて

これまでの現場実習を受け、3年生は進路決定に向けて履歴書の作成や面接試験の練習など、忙しい毎日を送っています。事業所によっては「繁忙期にも対応できるように」「作業効率を維持できるように」ということで追実習を行う場合もあり、12月以降も実習の予定が入っている生徒もいます。これまでの積み重ねが実を結ぶよう着実に進めていきたいと思います。

尚、年明けには卒業後の支援についての「移行支援計画」を作成します。2月16～19日の3学年進路面談で確認し、さらに移行支援会議で関係諸機関と情報共有します。卒業後の生活について、改めて御家庭でも話題にさせていただきますようお願いいたします。

来年度の実習に向けて

1・2年生については、後期の現場実習の様子を踏まえ、来年度の実習の方向性を考えます。興味関心と仕事内容、自分にできることと職場で求められる作業能力などを考えながら進めていきます。場合によっては、デュアルシステム実習で異なる職種の仕事を体験し、見極めていきます。学校生活と現場実習が両立できるシステムですので、活用していきたいと考えます。

デュアルシステム実習【半日型】 午前は学校で授業、午後は企業実習等（逆のパターンもあり）

【曜日型】 月・火・水は学校で授業、木・金は企業実習等

【短期連続型】 1～2週間程度連続しての企業実習等



アビリンピックみやぎ大会 11月28日

第19回宮城県障害者技能競技大会が11月28日（土）多賀城市のポリテクセンター宮城で行われました。この大会は、日頃培った技能を互いに競い合うことにより、その職業能力の向上を図るとともに企業や社会一般の人々が障害者に対する理解と認識を深め、その雇用の促進を図ることを目的として開催されています。本校から7名が参加し、日頃の学習の成果を発揮しました。そのうち3名の生徒が入賞しました。

ビルクリーニング 銀賞

パソコンデータ入力 銀賞

喫茶サービス 銅賞



障害者雇用 宮城は2年連続全国最下位

宮城労働局が11月27日に発表した県内企業の障害者雇用率（H27.6.1現在）は、1.79%で、過去最高を更新したものの、2年連続で全国最下位でした（全国平均1.88%）。
※対象企業は従業員数50人以上の県内に本社を置く1392社

障害者雇用は少しずつ進んできているとは言え、法定雇用率2.0%には届いておらず、厳しい状況です。

今後も関係諸機関と連携し、企業への理解促進に努めたいと思います。地元の企業について、保護者の皆様からも是非情報をお寄せ頂きたくお願いいたします。

アルバイトについて御注意を！

卒業後の雇用をお願いしたい企業でアルバイトをすると、「過去にその人を雇った」ことになり、障害者雇用で企業が本来受けるべき支援が受けられないという問題が発生します。

実習でお世話になった企業、将来雇用をお願いしたい企業でのアルバイトは、御遠慮ください。

先輩の頑張りは効果絶大！

上記の通り、県内企業の障害者雇用への理解はまだまだ進んでおりません。

しかし、卒業生の定着指導に訪れた企業や実習で本校生徒を受け入れた企業から、

「あいさつがすばらしく、他の社員に良い影響を与えてくれた」「期待以上の働きで戦力になっている。」との評価を頂き、「是非後輩も雇用したい」というお話を受けることもあります。先輩の活躍が後輩の進路開拓に絶大な力を発揮しています！

